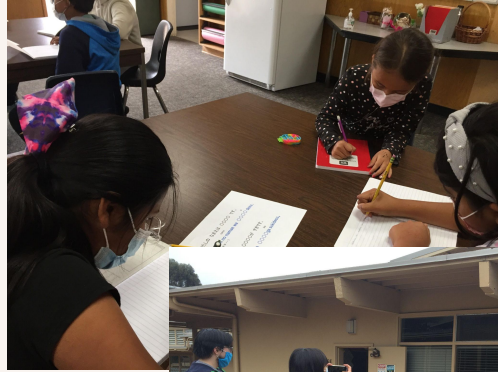


JAPN320S MIDTERM

Alyssa Powell, Nami Olson,
Jeremy Ruiz



概要



01 どのような事をしたか

「イントロ・日本のことを知っている?」「自己紹介・挨拶」「動物の鳴き声」「妖怪・食べ物・ハロウィン」

02 サービスラーニングを通して、何を経験したか(各個人の感想)

03 上手くいった事は何か

04 大変だったことは何か、どのように対応したか(各個人の感想)

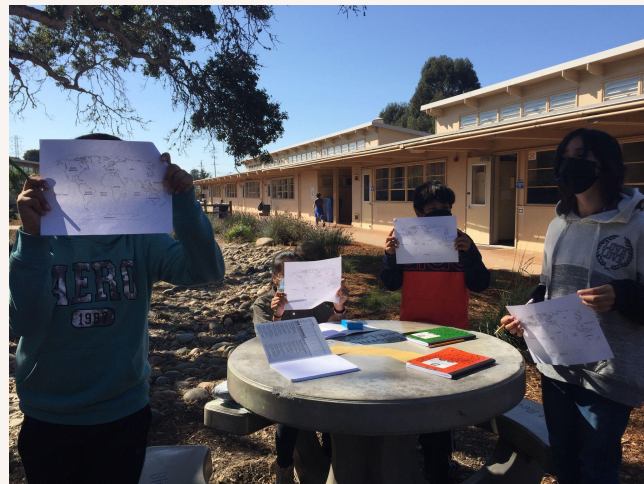
05 私達の目標・改善点(各個人の意見)

「イントロ・日本の事を知ってる？」のレッスン

- 最初のレッスンは外で行われた。
- 最初のレッスンでは、私達は生徒に自己紹介をした。そして、生徒の名前を確認した。
- 次に、世界地図で日本を見つけるように生徒達に尋ねた。
- 後は、生徒達に日本の国旗を描いてもらった。
- 最後に、日本についてすでに知っている事を生徒達に尋ねた。



(左)
外で私達の最初のレッスン

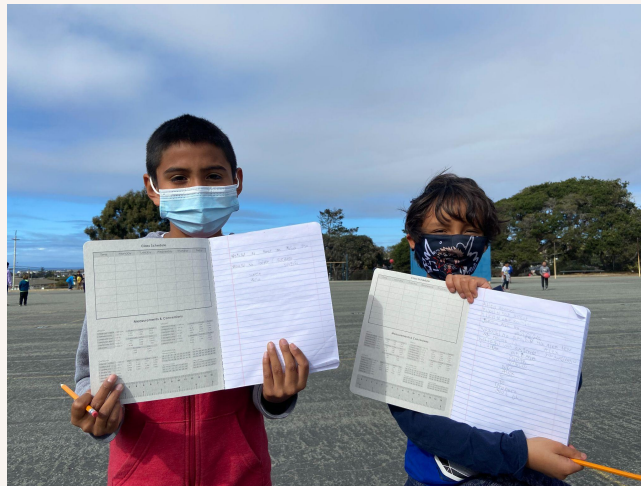
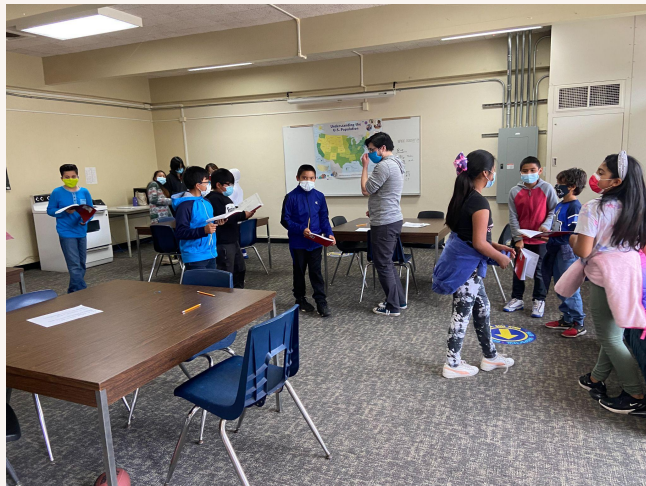


(右)
世界地図を掲げている生徒達。

「自己紹介・挨拶」のレッスン



- 子供達は「私の名前は___です。」と「私は___が大好きです。」の文を学んでもらった
- 私たちは自己紹介の例をあげた 例:「私はアリッサです。私はアニメが好きです」
- 子供達はグループで文を練習した。この間、私たちは子供を個別に手伝った。
- 最後に、子供達はお互いに自己紹介した

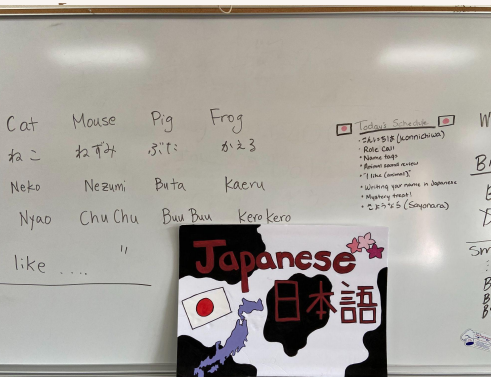


左。
子供達はお互いに自己紹介しました。

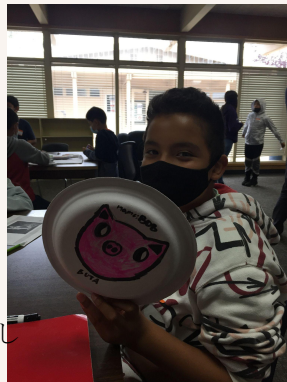
右。
二人の学生の自己紹介レッスンのノート

「動物の鳴き声」のレッスン

- レッスンプラン通りに進めることができた。
- 犬・猫・ネズミ・豚・カエル
- 日本語名/日本語での鳴き方
- 紙皿で動物のお面を作る
- お面を使って、クラスメイトと日本語の鳴き方で挨拶
- 「わたしは〇〇が大好きです」の応用（〇〇に動物名）



左) クラスの終わりには、ホワイトボード
いっぱいになるくらいの数の動物の名前
を日本語で書きました



右) クラフトの時間は、子供達が熱中して
いました



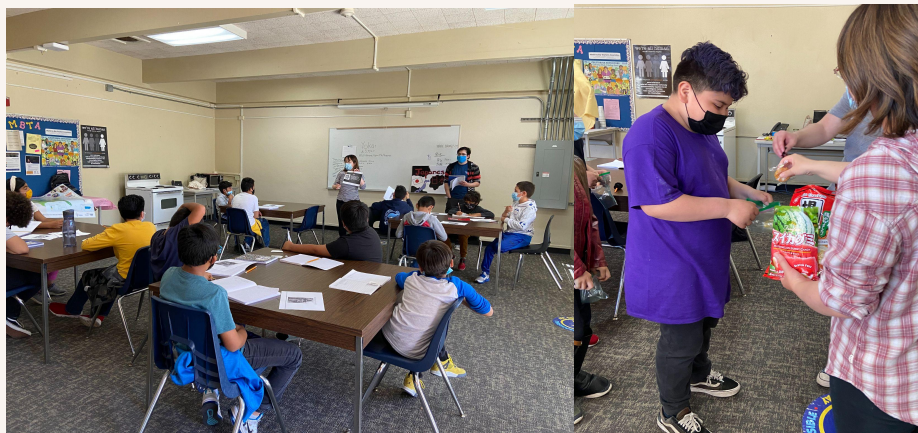
作ったお面で記念撮影

「妖怪・食べ物」ハロウィーンのレッスン

- 最初のハロウィーンレッスンの中で妖怪を教えた。
- 口裂け女とカッパと鬼の話を説明した。
- クラスの最後に、生徒達は妖怪ウォッチの妖怪体操をした。



- 次のハロウィーンレッスンの中で日本のお菓子や飲み物について教えた。
- 「おかしをくれなきゃ、いたずらするよ！」の言い方を生徒達に教えた。
- 文章を言った後、生徒達にお菓子をあげた。



サービスラーニングを通して何を経験したか(アリッサ)

- 私は7歳の妹がいるので、三年生の宿題を手伝ったり、遊んだりするのは簡単です。
- 私は先生になりたいので、教室のより良い環境づくりに気が付いた。

例:「一回拍手、二回拍手」
「私が今・さっき言ったことは何？」



右。三年生と一緒に宿題をしました。
左。外で子供達と遊びました



サービ斯拉ーニングを通して何を経験したか(ジェレミー)

- サービスラーニングの経験から、生徒の集中力を維持するために新しいアクティビティが必要であることがわかった。
- 特定のトピックに時間が長すぎると、生徒は退屈してしまう。
- ホワイトボードにレッスンプランを書くと、どのアクティビティを計画したか覚えやすくなることを学んだ。
- サービスラーニングで気付いたのは、生徒は吸収力が早く、常に日本語で新しい単語や文章を学びたいと思っている。



サービスラーニングを通して何を経験したか(なみ)

* 野外で教えることは、室内で教えるよりも難しいと感じた。

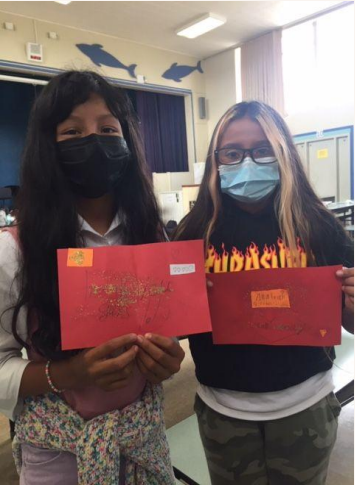
例) 声が届きにくい、生徒達が集中しにくい、書いて教えることができない、など。

* グループとして、サービスサイトに行く前にレッスンの流れや、持ち物などを再確認しておくことでレッスンの効率がよくなると感じた。

* 日によってクラスの人数が変わるので、臨機応変に対処しなければならない。

例) 水曜日に来るが、金曜日には来ない生徒達がいる。

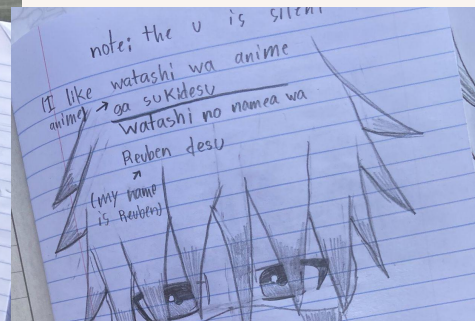
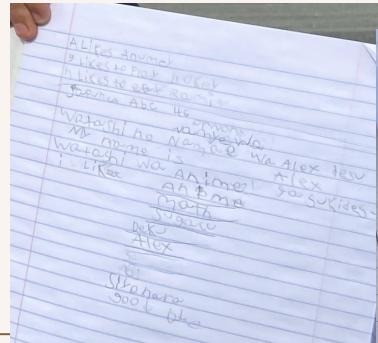
* CSUMBの先輩方が今まで日本語を教えてきたことが、積み重なっていると感じ、自分が生徒達に教えていることに強く責任を持つことができた。



(写真) 子供達がサンキューカードを作ってくれました！感激しました。

上手くいったこと

- 外ではなく教室があるので、クラスを進めやすくなった。
- 子供達はすごくいいメモを取ったりして、進んで日本語を学ぼうとしている。
- カフェテリアで「日本語テーブル」を設けたおかげで子供達との関係がさらに良くなった。
- 校長先生に私達のクラスに興味を持っていただけたり、CPYのスタッフの皆さんに子供達が楽しく日本語レッスンを受けていると言われることが多い。



野外から室内へ変わり、授業が楽になりました。

子供達はノートに沢山メモを取っています。

大変だったことは何か、どのように対応したか(各個人の感想)



アリッサ



学校のマスコット

* 18人ぐらいの学生がいるので名前を覚えることが大変だった。さらに、水曜日と金曜日の学生が同じではない名札を使い始めたから名前を覚え安くなりった。



ジェレミー

* 私たちのクラスには非常に多くの生徒がいるため、時々生徒は集中力を失う。

* この問題を解決するために、クラスの前に、ホワイトボードにレクシンプランを書く。そして、それぞれのアクティビティが長すぎないことを確認する。



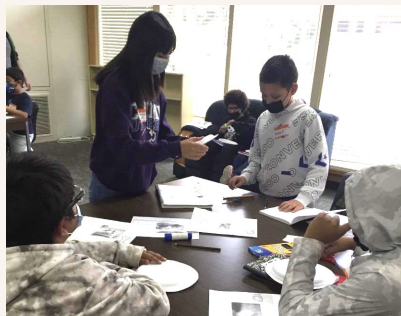
なみ

* 野外でのレッスンがとても大変だった。グループ内で何度も話し合い、どのようにしたら効率よくレッスンが進むのかを確認した。

* 予想以上に多くの子供達が日本語を勉強したいため、日本語テーブルを用意した。

私達の目標・改善点

アリッサ



* 子供達ともっと深い関係を作りたい

* その理由は私が子供の頃に時間をかけて自分のことを良く知ってくれる先生が好きだったからです。そのタイプの先生になりたい

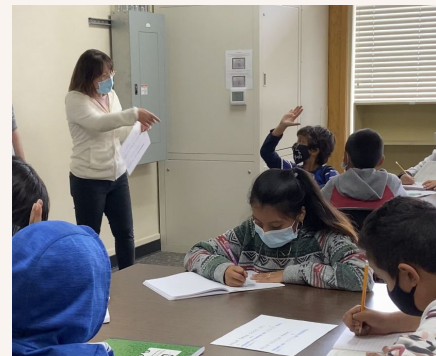
ジェレミー



* クラス全員が集中できるような環境づくりをしたい。

* 各学生を個別に支援できるようにしたいと思う。

なみ



* クラス全員の名前を覚えること。

* 日本人として日本語に関する質問に出来るだけ多く答えてあげること。



ご静聴ありがとうございました！



こちらの動画を
どうぞ！